

中国語系児童生徒の発達段階に配慮した漢字学習の方法と 漢字教材の開発

－日中漢字の対応関係を活用して－

周 勝 男*・釜 田 聡**

(令和元年9月2日受付；令和元年12月17日受理)

要 旨

外国人の定住と家族移民化を背景に、外国人児童生徒が近年増加傾向にある。こうした児童生徒に対して、日本語指導や教科学習支援等の充実を図ることが急務となっている。表意文字である漢字は日本語の語彙の大半を形成しているため、日常生活だけでなく、学校教育においても、漢字の読み書きに関する知識は全ての教科を学習する基盤となる重要なものである。日本の小学校において、全ての教科の教科書の表記が『学習指導要領』が示した「学年別漢字配当表」に準じていることから、日本の学級に編入した中国語系の子どもにとって、当該学年配当漢字以上の読み書き力が必要である。効率的な学習ができる漢字教材の開発が要求されている。

本研究は中国語系の子どもを対象に、子どもの発達段階に配慮して、日中漢字の対応関係を活用し、学年別配当漢字を含めた常用漢字を効率的に学習できる漢字教材の開発を試みた。具体的には、まず、子どもの発達段階に合わせた漢字学習支援に向けて、日中両国の小中学校における漢字指導の内容及目標を比較的に分析した。次に日中漢字の対応関係及びそれを活用した漢字・語彙指導法に関する先行研究を考察した。最後、先行研究の成果と課題を踏まえ、中国語系の子どもの発達段階を考慮し、日中両言語の相互育成を目指した漢字教材を作成した。

KEY WORDS

Chinese-speaking children 中国語系の子ども, Common kanji 常用漢字, Kanji teaching materials 漢字教材, Correspondence between Japanese and Chinese kanji 日中漢字の対応関係

1 研究題目設定の理由

1.1 JSL児童生徒への漢字学習支援の重要性と課題

外国人労働者の受入と家族移民化を背景に、外国ルーツの児童生徒が増加傾向にある。こうした児童生徒に対して、日本語指導や教科学習支援等の充実を図ることが急務となっている。表意文字である漢字は日本語の語彙の大半を形成しているため、日常生活だけでなく、学校教育においても、漢字の読み書きに関する知識は全ての教科を学習する基盤となる重要なものである。また、漢字・語彙力の育成は基礎的・基本的な学力の育成として小・中・高校段階だけでなく、生涯学習の中でも重要な意味を持つ。

外国ルーツの児童生徒の漢字学習について、近年関心が高まっており、漢字に関する教材も複数出版されている。例えば、『外国人の子どものための日本語 絵でわかるかんたんかんじ80』¹⁾という出版書籍もあり、「小学生用の漢字の音訓読み熟語集 (8言語対訳)」²⁾や『漢字練習帳 中国語版』³⁾というネットで公開された漢字教材もある。しかし、それらの多数は各教科のテキストに掲載した漢字及び熟語の翻訳教材であり、JSL児童生徒、特に漢字圏の子どもの母語と日本語の対応関係が十分考慮されていない。

1.2 中国語系の子どもへの漢字学習支援の課題

中国語母語話者にとって、日本語を学習する上で、母語の漢字知識が有利に働くことは広く知られている。これまで中国人日本語学習者を対象とした漢字指導に関する研究が多数であるが、その殆どは成人向けである。石井 (2013) は、日本語を第二言語として学ぶ児童生徒の漢字学習は、第一言語と共に認知的な発達も遂げた成人の漢字学習とは異なるため、児童生徒の年齢差、環境差、日本語などの多様性を配慮して、漢字学習目標の設定とそれに基づくカリキュラムや評価方法の必要性を指摘した。従って、中国語系の子どもの発達段階を配慮して、日中漢字の対応関係を活用し、効率的な漢字学習ができるような教材の開発が要求されている。

*兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科 **学校教育学系

以上のことから、本稿は「中国語系児童生徒の発達段階に配慮した漢字学習の方法と漢字教材の開発－日中漢字の対応関係を活用して－」というテーマを設定し、次の研究目的と方法を設定した。

2 研究の目的と方法

2.1 研究の目的

本稿は中国語系の子どもを対象に、子どもの発達段階を配慮し、日中両言語の相互育成を目指して、日中漢字の対応関係を活用し、学年別配当漢字を含めた常用漢字を効率的に学習するための漢字語彙指導法とそれに合わせた教材を開発することを目的にする。

2.2 研究の方法

まず、中国語系の子どもが来日前に学習した漢字知識と来日後の編入した学級の漢字学習内容などを把握するため、日中両国の小中学校における漢字の学習内容と目標を比較分析する。次に、日中漢字知識の対応関係及びそれを活用した漢字・語彙指導に関する先行研究を考察する。最後に、先行研究の成果と課題を踏まえ、中国語系の子どもを対象に、日中両言語の相互育成を目指して、漢字を効率的に学習するための漢字語彙指導法とそれに合わせた教材の開発を試みる。

3 日中両国の小中学校における漢字教育

3.1 日本の小中学校における漢字の学習目標と内容

日本の小学校教育において、漢字学習の内容と目標は『学習指導要領（国語）』に示されている。漢字に関する学習目標及び内容について、「読み方」については配当学年で習得し、「書き方」については次の学年を含めた2年間で習得することが目標とされているのである。また、漢字の「読み」「書き」以外の目標としては、第三学年及び第四学年で「漢字のへん、つくりなどの構成についての知識をもつこと」、第五学年及び第六学年では「仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること」が挙げられている。

小学校六年間で習得すべき漢字は、『学習指導要領（国語）』が示す「学年別漢字配当表」によって具体的な字種（1006字）が挙げられている。具体的には、一年生に80字、二年生に160字、三年生に200字、四年生に200字、五年生に185字、六年生に181字が配当されている。また、2020年度から施行の学習指導要領（新学習指導要領）で、学習漢字の学年配当表が変更となる。具体的には、20字が新たに追加され、学習漢字が1026字となる。また、一部の漢字は配当学年に変更があるが、現行の学習漢字1006字から習わなくなる漢字はないのである。

一方で、中学校教育の場合は、漢字の学習範囲が小学校の「学年別漢字配当表」を超えて常用漢字にまで拡大されているものの、具体的な字種の配当学年が明示されていない。このため、実際の漢字学習は、それぞれの教育現場で採用されている教科書や、国語科担当教員の裁量に委ねられているのが現実である。また、「常用漢字表」は今日の日本で通常使用されている漢字の目安となっており、日本の学校教育においては、高校までに常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字が書けるようになることが目標とされている。2010年に改訂された現行の「常用漢字表」では、小学校の学習漢字の1026字を含めて、総数2136字種となった。各学校段階において指導することを目安として、文部科学省HPにて「音訓の小・中・高等学校段階別割り振り表」⁴⁾が発表されている。

3.2 中国の小中学校における漢字の学習目標と内容

中国教育部（文部科学省相当）が2011年に公布した《義務教育語文課程標準》（『学習指導要領（国語）』相当）では、漢字の学習目標と内容については次のように設定している。第一段階（第1，2学年）では1600字前後読むことができ、その内の800字前後は書くこともできる。第二段階（第3，4学年）では、累計2500字前後読むことができ、その内の1600字前後は書くこともできる。第三段階（第5，6学年）では、累計3000字前後読むことができ、その内の2500字前後は書くこともできる。第四段階（第7，8，9学年）では、累計3500字前後読むことができる。また、教育部は九年義務教育課程に習得すべき漢字3500字に関しては、常用漢字2500字、次常用漢字1000字を発表しているが、どの学期にどの漢字が習得すべきかを特に規定していないので、使用教科書に頼るしかないのが現状である。ところが、教育部により、2019年の秋から中国全国で統一の『語文』教科書が使用されるようになった。これまでは人民教育出版社を含めて多数の出版社の教科書を中国各地方の学校に使用されていた。そのうち、全国範囲から見れば人民教育出版社の教科書が最も採用率が高い。

3.3 日中の小中学校における漢字学習内容の比較

上述した内容から、日中両国の小中学校における漢字指導を比較していく。

まず、各段階の漢字習得数について、同学年で日本より中国の方が遥かに多いことが分かる。また、同一漢字の出現順が異なる可能性があるが、日本より中国の方が早く出現されているものが多いと予測される。

漢字の音韻と書写などの基礎知識について、中国では、小学校低学年で漢字の注音表記であるピンインと、漢字のへんやつくりなどの構成についての知識を学習することになっている。一方で、日本では、小学校低学年では表音文字で仮名（片仮名、平仮名）やローマ字の学習が優先されており、中学年で漢字のへんやつくりなどの構成についての知識を学習することになっている。

日本において、全ての教科の教科書の表記が学習指導要領の学年別漢字配当表に準じている。そこで、学齢期に來日し、日本の学級に編入した中国語系の子どもにとって、当該学年配当漢字以上の習得が必要である。

以上の分析により、小学校低学年に來日した子どもにとって、中国語の漢字の基礎知識を十分に習得していないことから、日中両言語の相互育成を考える時、中国語母語話者による学習支援が必要であると言えよう。一方で、小学校中学年以降に來日した中国語系の子どもにとって、既習した中国語の漢字・語彙知識を効果的に活用すれば、日本語の漢字語彙を効率的に学習できると推測できる。また、漢字語彙力は読解などの言語運用力との間に相関があるから、言語運用力を向上させるため、既知語へ素早くアクセスできる教材の開発が必要である。

4 日中漢字の対応関係及び漢字学習の方法に関する先行研究

周知のように、日本語と中国語の漢字は、歴史的変遷を経て、それぞれ異なる形態・音韻・意味を持つようになった。次は日中漢字の対応関係に関する数多くの先行研究を形態・音韻・意味の三点から概観すると同時に、日中漢字の対応関係を活用した漢字語彙の学習方法に関する研究を考察する。

日本語の漢字の音読みは中国を起源とする読み方で、借入の時代によって呉音、漢音、唐音などと呼ばれる読み方がある。日中漢字音の対照研究は数多く行われてきた⁵⁾。そのうち、日中の漢字音の対応関係を系統立てて検討する代表的な研究として、古藤（1987）と三好（1993）が挙げられる。

古藤（1987）は「常用漢字表（1981）」に掲げられた音読みのある漢字を調査対象とし、ピンインを声母と韻母に分けて日中の漢字音を対照分析し、そこに見られる規則的關係を簡潔に提示した後、中国語音韻配列による常用漢字音一覧表を作成した。また、三好（1993）は「常用漢字表（1981）」の中の音読みのある漢字を抽出し字例を挙げながら、声母と子音の対照と、韻母と漢字音末部分との対照を提示した。しかし、対応關係の具体的応用についての検討は両研究では行われていない。

謝（2008）は日本語の音読みに関してはかなり詳細な教科書として制作した文献が中国でにより出版されている。江見（2013）は謝（2008）を参考に、日本語の漢字音の音読みの呉音と漢音の双方を歴史的仮名遣いで表し、それを基にして、中国語、広東語、韓国語、ベトナム語などの漢字音を比較するデータベースを制作してウェブ「(New試作中) 日中韓越漢字」⁶⁾で公表している。

しかし、上記の漢字音の対応關係に関する先行研究ではいずれも「常用漢字表（1981）」に掲げられた漢字（1945字）をもとにしたものなので、2011年版の新常用漢字表（2136字）に追加された漢字を組み合わせる必要がある。また、データベースをもとに、学習者のニーズや学習目標に合わせた漢字語彙の教材開発も必要である。

薛（2013）は中国語の漢字知識の利用をめぐって、中日音韻対照を更に細かく考察した結果、成果の一つとして、中国語の声母と日本語の頭子音の対応關係を「1対1」、「1対2」と「1対多数（3以上）」の三種類に分けて提示した。そして、「1対1」の対応關係は日本語教育現場で直接利用できると指摘した。

石原嘉人（2013）は漢字圏の学習者が漢字の音読語を理解する際に母語の知識を有効に活かすことで、誤読を未然に防ぐことは可能であると指摘し、「運動」を「ウンドン」と読むなど漢字圏の学生が陥りやすい誤用を未然に防ぐために、中国語、韓国語、ベトナム語の漢字音の韻尾との対応關係について整理し、漢字圏の学生を対象とした漢字音読語の指導方法を提案した。

日本語と中国語は漢字語彙の表記と意味で共通する部分が多いと認識されている。日中両言語の字形と字義を対照し漢字を学習する先行研究が多数である⁷⁾。そのうち、文化庁（1978）が公表したものが諸研究の基礎データとしてよく活用されている。

文化庁（1978）で中国語と対応する漢語がS・O・D・N（Same/Overlap/Different/Nothingの頭文字）と4種類に分類されている。Sameとは、日中両言語における書字あるいは意味を共有し、それらが極めて近い漢語である。Overlapとは、日中両言語における意味が一部重なるが、両者の間にずれのある漢語である。Differentとは、日中両

言語における意味が全く違う漢語である。Nothingとは、中国語に存在しない日本語の漢語である。この4種類のうち、Same語、Overlap語、Different語のような日中両言語の間に意味や書字的に共有するものは日中同形語と呼ばれ、日本語の漢語のうち約4分の3を占めている。このような同形語の書字上の類似性から、中国語の漢字知識が日本語の理解を促進すると指摘しているが、母語の影響で誤用の事例もよく指摘されている。

松下（2002）は日中漢字の字形と意味上の対応関係を活かす一つの方策として、語彙学習先行モジュールを提案した。語彙学習先行モジュールとは、「中国語系学習者がそろっている教育環境または自習環境において、日本語の語彙学習を、言語学習を構成する一部分として独立させ（モジュール化）、特に初級後半あたりから文法学習の進捗よりも先行して習得を進めるようにする」ということである。松下（2005）は成人向けの「語彙学習先行モジュール」を年少者に適用する試みを行った。年少者向けの「語彙学習先行モジュール」とは、「バイリンガルを含む中国語系の年少学習者が揃っている教育環境または自習環境において、日本語の語彙学習を、言語学習を構成する一部分として独立させ（モジュール化）、中国語系の年少学習者に学習しやすい語彙（L1知識の利用できる語彙）を、優先的かつ集中的に学習する」と松下（2005）は述べた。そして、松下（2005）は工藤（1999）『児童生徒に対する日本語教育のための基本語彙調査』⁸⁾を参照し、基本義と基本的用法が日中両語で一致する同形漢字語（計150語）を「児童生徒の基本語彙のうちのL1中国語知識直接利用可能語彙」として示した。しかし、松下（2005）で提示された語彙リストは日中漢字語彙の字形と字義上の対照しか考えていない。日中漢字の字音上の対応関係も活用すれば、日本語の読み方も無意味な暗記ではなくなり、記憶上の負担を軽減できると考えられる。この課題を解決するため、日中漢字の字音、字形、意味の対応関係を総合的に活用する必要があると考えられる。

また、濱田（2017）では、日中両言語で意味的に対応する漢字語が同じものの479語と異なるもの332語とに分けて整理したリストを提示した。

先行研究をごく簡単に概観したが、これらの成果を、中国語系の子どもを対象とした漢字語彙指導の現場に活用するには、成人との漢字知識や学習環境などの違いを考慮し、日中両言語の相互学習に効果的な漢字指導法や教材の開発が必要である。しかし、中国語系の子どもに向けての日中漢字の対応関係を活用した漢字教材が、管見の限りまだ少ない。次は先行研究の成果と課題を踏まえ、中国語系の子どもを対象に、日中漢字（音、形、意味）の対応関係を総合的に活用する漢字教材の作成を試みる。

5 中国語系の子どもを対象とした漢字教材の開発

ここでは、日中漢字対照表とそれにより抽出した漢字リストの作成及び、それらを使用する指導案の作成について述べていく。

5.1 「日中漢字対照表」の作成

日本において、全ての教科の教科書の表記は学習指導要領が示した「学年別漢字配当表」に準じていることから、学齢期に来日し、日本の学級に編入した中国語系の子どもにとって、当該学年配当漢字以上の学習数が必要である。現行学習指導要領が示した「学年別配当漢字」を含めた常用漢字（2136字）をもとに、日中漢字の音韻、形態、意味上の対応関係に基づき、「日中漢字対照表」を作成中である。次の図1は「日中漢字対照表」のサンプルである。

文部科学省が発表した「音訓の小・中・高等学校段階別割り振り表（H23）」（以下「割り振り表」）では①漢字②学年③音訓④割り振り（小・中・高）の四項目が示されている。また、「常用漢字表（2136字）」では①漢字②音訓③例④備考の四項目が示されている。

「日中漢字対照表」を作成するに当たって、上記の項目のほかに、日中漢字の音韻、形態、意味上の対応関係を活かし、中国語の漢字の発音表記であるピンインを声母と韻母に分けて提示した上で、「常用漢字表（2136字）」で示された「例」から形態と意味上の対応関係をもつ日中漢字語彙を組み合わせている。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
1		学年 別	漢字 - 目	漢字 - 中	中文音	音読み		例1 - 日	例1 - 中	例2 - 日	例2 - 中
2	ア	7	亜	亜	ya	あ	亜熱帯 (あねったい)	亚热带 (ya/re/dai)	亜麻 (あま)	亚麻 (ya/ma)	
3	ア	7	哀	哀	ai	あい	哀愁 (あいしゅう)	哀愁(ai/chou)	悲哀 (ひあい)	悲哀 (bei/ai)	
4	ア	7	挨	挨	ai	あい	挨拶 (あいさつ)	—	—	—	
5	ア	4	愛	愛	ai	あい	愛情 (あいじょう)	爱情 (ai/qing)	恋愛 (れんあい)	恋愛 (lian/ai)	
6	ア	7	曖	曖	ai	あい	曖昧 (あいまい)	暧昧 (ai/mei)	—	—	
7	ア	3	悪	悪	e	あく、お	悪意 (あくい)	恶意 (e/yi)	悪魔 (あくま)	恶魔 (e/ao)	
8	ア	7	握	握	wo	あく	握手 (あくしゅ)	握手 (wo/shou)	掌握 (しょうあく)	掌握 (zhang/wo)	
9	ア	5	圧	圧	ya	あつ	圧力 (あつりょく)	压力 (ya/li)	気圧 (きあつ)	气压 (qi/ya)	
10	ア	7	扱	—	—	—	—	—	—	—	
11	ア	7	宛	宛	wan	—	—	—	—	—	
12	ア	7	宛	宛	ran	—	—	—	—	—	
13	ア	3	安	安	an	あん	安全 (あんぜん)	安全 (an/quan)	不安 (ふあん)	不安 (bu/an)	
14	ア	4	案	案	an	あん	案内 (あんない)	案内 (an/nei)	提案 (ていあん)	提案 (ti/an)	
15	ア	3	暗	暗	an	あん	暗示 (あんじ)	暗示 (an/shi)	明暗 (めいあん)	明暗 (ming/an)	
16	イ	4	以	以	yi	い	以上 (いじょう)	以上 (yi/shang)	以内 (いない)	以内 (yi/nei)	
17	イ	4	衣	衣	yi	い	衣食住 (いしょくじゅう)	衣食住 (yi/shi/zhu)	衣服 (いふく)	衣服 (yi/fu)	
18	イ	4	位	位	wri	い	位置 (いち)	位置 (wri/zhi)	各位 (かくい)	各位 (ge/wri)	
19	イ	4	囲	围	wri	い	囲碁 (いご)	围棋 (wri/qi)	範囲 (はんい)	范围 (fan/wri)	
20	イ	3	医	医	yi	い	医学 (いがく)	医学 (yi/xue)	医療 (いりょう)	医疗 (yi/liao)	
21	イ	7	依	依	yi	い、え	依頼 (いらい)	依頼 (yilai)	依然 (いぜん)	依然 (yi/ran)	
22	イ	3	委	委	wei	い	委任 (いにん)	委任 (wei/ren)	委員 (いゐん)	委员 (wei/yuan)	
23	イ	7	威	威	wei	い	威力 (いかりょく)	威力 (wei/li)	示威 (しゐ)	示威 (shi/wei)	
24	イ	7	為	為	wai	い	行為 (ゐゐ)	行为 (xing/wai)	作為 (さくゐ)	作为 (zuo/wai)	

図1 「日中漢字対照表」のサンプル

この「日中漢字対照表」は複数の項目から構成される。以下は項目名について説明する。

A例は五十音（カタカナ）である。B列は漢字の配当学年である。小学校1年～6年までの配当漢字は1～6をあてたが、それ以外の常用漢字は「7」とした。C列は日本語の漢字である。D列は中国語の漢字である。なお、香港や台湾などで使用される繁体字ではなく、「簡体字」だけを入れた。E列は中国語の漢字の発音表記であるピンインの声母である。F列は中国語の漢字の発音表記であるピンインの韻母である。G列は日本語の音読み（平仮名表記）である。音読みがない漢字は「ー」と表記する。H列とJ列は「常用漢字表」の語彙例から選出した中国語と形態、意味上の対応関係を持つ日本語の単語例である。I列とK列はそれぞれH列とJ列と対応した中国語の単語例（漢字とピンイン）である。音読みがない漢字には、単語例もつかないこと。

5.2 日中漢字対照表による抽出した漢字学習リストの作成

日中漢字表を利用して、多様な視点から漢字学習リストの作成ができる。例えば、G列「日本語の音読み」を押せば、同じ音読みを持つ漢字数が一目瞭然である（図2）。

音韻上の対応関係を持つ漢字数が5つ以上ある漢字を抽出し、漢字学習リストを作成した。音読みが「い」である漢字一覧の一部である(図3)。

図2 漢字学習リスト
(日本語の音読み)

イ	学年別	漢字	漢字中	中文音	音読み
イ	4	日	一	y i	い
イ	4	衣位	衣位	y i	い
イ	4	圍	圍	w ei	い
イ	7	医	医	y i	い
イ	3	委	委	w ei	い
イ	7	威	威	w ei	い
イ	7	為	為	w ei	い
イ	7	畏	畏	w ei	い
イ	6	胃	胃	w ei	い
イ	7	尉	尉	w ei	い
イ	6	異	異	y i	い
イ	5	移	移	y i	い
イ	7	藝	藝	y i	い
イ	7	偉	偉	w ei	い
イ	7	椅	椅	y i	い
イ	3	意	意	y i	い
イ	7	緯	緯	w ei	い
イ	7	維	維	w ei	い
イ	7	維	維	w ei	い
イ	6	遺	遺	y i	い
イ	7	緯	緯	w ei	い
イ	7	醫	醫	y i	い
イ	3	医	医	y i	い

図3 漢字学習リスト
(音読みが「い」である漢字一覧)

表1 日中漢字音対照表による抽出した漢字学習リスト（筆者作成）

番号	音読み	ピンイン	日本語の漢字	番号	音読み	ピンイン	日本語の漢字
1	い	yi	意以医衣依移異遺	41	しん	shen	身申伸神紳娠深
2	い	wei	位圉委威胃偉緯違維尉慰為萎畏	42	しん	xin	心芯信辛新薪
3	いん	yin	引印因姻陰飲隱淫	43	しん	zhen	真診振震針
4	えん	yan	延沿炎宴演艷塩煙	44	せい	sheng	生牲声盛聖
5	えん	yuan	円援媛縁園遠猿	45	せい	xing	性姓省星醒
6	か	jia	加架仮価家嫁稼佳	46	せき	xi	昔惜析席夕
7	かい	hui	回灰会悔絵	47	せき	ji	跡積績籍脊
8	かい	jie	介界皆階解戒	48	せん	xian	仙鮮先腺線纖羨
9	かく	ge	各革格閣隔	49	せん	qian	千潜遷銭浅
10	かん	gan	感干肝幹甘敢	50	たい	dai	待怠帶袋貸逮戴
11	かん	guan	缶官棺館管関貫慣冠関観	51	たん	dan	丹単担胆淡誕
12	かん	han	汗寒漢憾韓	52	ち	zhi	知致稚値置
13	かん	huan	患喚換歡還環緩	53	てい	di	弟低底抵邸堤帝締遁
14	き	qi	企気汽岐奇祈起期棋旗棄器騎	54	てい	ting	亭停廷庭艇
15	き	ji	寄季既記紀基机飢忌伎機幾畿	55	とう	dao	刀到倒島悼盜稻
16	き	gui	貴規帰鬼亀軌	56	はく	bo	伯泊舶剥博薄
17	ぎ	yi	義儀疑議宜	57	はん	fan	反販飯煩汜犯範繁藩帆汎
18	きゅう	jiu	九久旧究糾急臼	58	はん	ban	半伴坂阪板版班斑般搬頒
19	きょ	ju	巨拒距居拠挙	59	ひ	fei	妃肥飛非扉費
20	きょう	jing	京競驚境鏡	60	ふ	fu	父夫扶負付府符附赴浮婦富腐敷膚賦
21	きん	jin	禁襟金斤近筋謹僅緊巾錦	61	ふく	fu	服副幅福伏復腹複覆
22	けい	jing	徑莖経敬警	62	ふん	fen	粉紛雰奮憤墳
23	けん	jian	見建健鍵件儉検剣肩兼堅	63	へい	bing	丙柄兵並併餅
24	けん	quan	犬券拳権圈	64	へい	bi	閉幣弊蔽陛
25	けん	xian	県険献憲顯賢嫌	65	ぼ	mu	母募墓暮慕
26	こ	hu	戸呼湖虎弧	66	ほう	bao	宝包抱胞飽報褒
27	こ	gu	古故固孤雇顧鼓	67	ほう	feng	奉俸豊峰縫蜂
28	ご	wu	五午呉誤悟	68	ほう	fang	方芳放放訪
29	こう	gong	公工功攻貢	69	ほう	fang	坊妨防房肪紡
30	こう	hou	喉候侯厚后	70	めい	ming	名銘命明鳴冥
31	さい	cai	才菜彩采採裁	71	ゆう	you	友有幽悠郵猶遊誘憂優
32	さい	zai	再災載栽宰	72	よう	yang	羊洋様養揚陽瘍
33	し	zi	子姉姿恣諮資紫	73	よう	yao	要妖揺謡腰窯曜
34	し	shi	氏士仕市史使始施師視試詩矢	74	り	li	里理裏利痢吏離璃
35	し	zhi	支肢枝至止祉志誌摯旨指脂	75	りょう	liao	了料僚寮療瞭
36	し	ci	刺詞伺賜雌	76	りょう	liang	両良涼量糧
37	し	si	四死私思司嗣飼	77	れい	ling	令鈴齡零靈
38	しゃ	she	社舎捨射赦	78	れい	li	礼励戾例隸麗
39	しょう	xiao	小肖宵消硝笑	79	れん	lian	恋連廉練鍊
40	しょう	zhao	召招詔沼昭照				

表1「漢字学習リスト」には79組で、計544字がある。日本語の音読みと中国語のピンインとの対応関係は「1対1」、「1対2」と「1対3」「1対4」「1対5」のように多種類である。例えば「漢字学習リスト」で「し」と読む漢字の中国語読みは「zi」「shi」「zhi」「ci」「si」の五種類がある。そのように、544個の漢字を79組に整理してリストアップすれば、中国語系の子どもにとって漢字の母語知識が生かせ、効率的な学習ができる漢字教材になる。そして、日本語指導側が中国語の知識がなくても中国語系の子どもへの漢字指導に生かせると考えられる。また、この漢字学習リストを活用して、小学校高学年以降に来日した中国語系の子どもがある程度漢字を効率的に独習することができるだろう。

5.3 「日中漢字対照表」と「漢字学習リスト」を使用した指導案

漢字学習リストを使用した指導案の作成にあたって、学習目標、学習漢字、活動内容と留意点の4項目で構成した指導案のモデルを提示する。

表2 指導案のモデル（筆者作成）

学習目標	①音符から漢字の音読みを推測できる。
	②音符を生かして、同音の形声漢字を読んだり書いたりすることができる。
	③音韻と形態と意味上の対応関係をもつ日中両言語の単語例（日中同形語）を学習して読み書きができる。
学習漢字	才, 采, 菜, 彩, 採, 裁
活動内容	①学習漢字だけを見せて、質問する。知っている漢字はどれですか。○をつけてください。
	②「日中漢字対照表」で例示した単語例を参考にして、学習漢字を使った語彙を見せて質問する。知っている言葉はどれですか。 語彙：才能, 喝采, 野菜, 彩色, 採用, 裁判 または、次のように、クイズの形で提示してもいい（特に①の質問で学習漢字の全てが知っている場合）。 クイズ：喝（?）, （?）能, （?）色, （?）用, （?）判, 野（?）
	③学習漢字の字音を教えた後、字音と字形上の特徴をまとめる。 字音上の特徴：読み方が同じである。 字形上の特徴：同じ音符を持つ漢字がある。（采, 菜, 彩）
留意点	提示された漢字のうち、小学校の配当漢字を優先的に学習する。

6 まとめ

本稿は中国語系の子どもを対象に、日中両言語の相互育成に有効的な漢字語彙指導法とそれに合わせた教材の開発を試みた。具体的には、まず、子どもの発達段階に合わせた漢字学習支援に向けて、日中両国の小中学校における漢字指導の内容と目標を比較的に分析した。次に、日中漢字の対応関係及びそれを活用した漢字・語彙指導法に関する先行研究の成果と課題を明らかにした。最後、先行研究の成果と課題を踏まえ、中国語系の子どもの発達段階を考慮し、日中両言語の相互育成に有効的な漢字語彙データベースと漢字教材を作成した。

本研究により開発した漢字語彙データベースは、次の三つの場合で活用できると考える。

まずは、取り出し授業で日本語教育を受ける中国語系の子どもに向けて、中国人支援者が体系的且つ効率的な漢字指導をするための参考資料になる。そして、小学校高学年以降に来日した中国語系の子どもが漢字の独学に支えると言える。また、学校の日本語指導員が中国語を十分に理解していなくても、日中漢字の対応関係を生かして、漢字指導をよりうまくできると考えられる。さらに、「日中漢字対応表」は日本語を学習する中国人学習者だけでなく、中国語を学習する日本人学習者にも参考になる。

今後の課題として開発した教材の効果を授業実践で検証していきたいと考える。

— 注 —

- 1) 武蔵野市帰国外国人教育相談室教材開発グループ（編著）2001『外国人の子どものための日本語 絵でわかるかんたんかんじ80』、関連教材には『絵でわかるかんたんかんじ160』『絵でわかるかんたんかんじ200』がある。
- 2) 財団法人兵庫県国際交流協会HPにて公開された翻訳教材「小学生用の漢字の音訓読み熟語集」
<https://www.hyogo-ip.or.jp/torikumi/tabunkakyose/kyozai/gakushu.html>（2019年8月5日閲覧）

- 3) 財団法人国際日本語普及学会HPにて公開された外国人児童生徒のための漢字練習教材『漢字練習長 中国語版』
http://www.kodomo-kotoba.info/booklet/basicsearch_booklet_04_01.html (2019年8月5日閲覧)
- 4) 「音訓の小・中・高等学校段階別振り振り表 (平成23年3月)」(2019年8月5日閲覧)
http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/_icsFiles/afieldfile/2011/04/13/1304421_002_1.pdf
- 5) 日中漢字音の対照研究としては、時間順で次のようなものが挙げられる。
 近藤功「中日漢字音の比較その1－韻母部分に対応する字音－基礎調査－」『国際学友会日本語学校紀要』, pp.55-72, 1982
 成春有「漢語韻母与日語読長音の対応関係」『日語学習与研究』02, pp.8-11, 1996
 趙基天「日中漢字読音対照 (日中漢字音の対照)」『千葉工業大学研究報告・人文編』35, pp.117-138, 1998
 劉忠良「日語漢字音読速成」『山西財經大學學報・高等教育版』02, pp.55-56, 1999
 王保田「關於漢語的韻母与日語漢字音讀」『日語學習与研究』03, pp.34-48, 2004
 劉振雷, 山本秀樹, 菊池章「ピンインと音読みの関係に基づいた漢字読み方学習システム」『教育システム情報学会誌』27(2), pp.211-220, 2010
- 6) 江見圭司により制作したデータベースや教材HP「(New試作中) 日中韓越漢字」(2019年8月5日閲覧)
<http://emich.world.cocan.jp/kanji/kanji.html>
- 7) 日中漢字の字形と字義 (語形と語意) の対照研究としては、時間順で次のようなものが挙げられる。
 文化庁『中国語と対応する漢語』大蔵省印刷局, 1978
 戸田昌幸「日本常用漢字と中国・台湾との音声, 字形に関する対照分析－中国人のための日本常用漢字教育の視点」『麗沢大学論叢』16, pp.95-158, 2005
 陳毓敏「中国語母語学習者の日本語の漢字語習得研究のための新たな枠組みの提案－意味使用の一般性と意味推測可能性を考慮して」『日本語科学』25, pp.105-117, 2009
 邱学瑾「日本語学習者の日本語漢字語彙処理のメカニズム－異言語間の形態・音韻・意味の類似性をめぐって」『日本語教育』146, pp.49-60, 2010
- 8) 工藤真由美『児童生徒に対する日本語教育のための基本語彙調査』ひつじ書房, 1999

— 引用・参考文献 —

- (1) 石井恵里子「年少者日本語教育における漢字教育－学ぶ力を支える漢字力の育成－」『JSL 漢字学習研究会誌』第5号, pp.1-11, 2013
- (2) 石原嘉人「中国語, 韓国語, ベトナム語の漢字音の韻尾「-n」「-ng」「入声音」と日本語の音読との対応関係」『JSL 漢字学習研究会誌』第5号, pp.65-71, 2013
- (3) 江見圭司「現代日本漢字音を中国語, 韓国語と歴史的仮名遣いから理解するためのデータベースと電子教材の作成」, NAIS Journal Vol.8, 2013
- (4) 薛華民「中国人日本語学習者のための中日漢字音対照研究」『日本学研究』22, pp.71-82, 2012
- (5) 古藤友子「日中漢字音の対照」『日本語教育』62, pp.225-240, 1987
- (6) 謝国芳『日語漢字读音读律秘』世界図書出版有限公司, pp.1-469, 2008
- (7) 三好理英子「中国語 (普通話) を第一言語とする日本語学習者のための日中漢字音対照研究」『日本語教育研究』26, pp.87-102, 1993
- (8) 濱田美和「中国人学習者向け漢字教材開発のための基礎資料」『人間発達科学部紀要』11(3) pp.131-142, 2017
- (9) 松下達彦「中国語を母語とする日本語学習者のための語彙学習先行モジュールの提案～第二言語習得理論, 言語認知, 対照分析, 語彙論の成果を踏まえて～」中国日语教学研究会 (中国日本語教育学会) 会誌『日語学習与研究』2002年第1期
- (10) 松下達彦「語彙学習先行モジュールの日中バイリンガル児童・生徒への応用: 母語の漢字知識を活かす」『母語・継承語・バイリンガル教育 (MHB) 研究』1, pp.84-95, 2005

Development of Kanji teaching methods consider the developmental stages of Chinese-speaking children

: Utilizing correspondence between Japanese and Chinese kanji

Shengnan ZHOU* · Satoshi KAMADA**

ABSTRACT

The number of foreign children living in Japan has increased in recent years , against a backdrop of foreign settlement and family migration. There is an urgent need to improve Japanese language instruction and subject learning support for foreign children. Because most Japanese vocabulary is in the form of kanji, the ability to read and write kanji is an important foundation for learning all subjects in school curriculum.

This study sought to develop kanji teaching materials for Chinese-speaking children, taking the developmental stages of the children into consideration, and utilizing the correspondence between Japanese and Chinese kanji. First, in order to provide Kanji learning support tailored to developmental stages of the children, the content and goals of the Chinese leadership was analyzed relative to elementary and junior high schools in Japan and China. Next, previous research on correspondence between Japanese and Chinese kanji was considered. Finally, based on the results and issues raised in previous research, I developed kanji teaching materials aimed at mutual development of both Japanese and Chinese languages, considering the developmental stage of Chinese children.

* The Joint Graduate School in Science of School Education, Hyogo University of Teacher Education (Ph. D. Program)

** School Education